

私 の 工 夫

「つながり」と「かかわり」を求めて

倉敷市立南中学校

教諭 齋藤由紀子



1 はじめに

「学び合い」や、「対話的で深い学び」を進める際に欠かせないものがある。私は、「知識」と「表現力」と「安心感」だと考える。中でも「安心感」が一番重要で、それは授業だけでは得られないと理解している。「間違ったことを言ったら笑われる」「自分の意見を受け入れられないのではないかな」等の気持ちがあったのでは対等な対話にならない。何でも安心して発言でき、深い学びにつながるような人間関係や雰囲気づくり、「分からない」が言える環境づくりが大切だと考える。

「安心感を高めること」「話し合いに参加・貢献しようとするこ

と」「一人一人の違いを認め、大切にしようとするこ」を意識した授業や学級・学年経営の実践を紹介したい。

2 実践について

(1) 「かかわり」を大切にする授業

人とかかわりながら学んでいくことで、新たな考えに触れ、学びを深めることになる。また、人とかかわる力も豊かになっていく。そのために、授業の中でも次のような様々な人と学び合える機会や場を設けることを大切にしている。

- ・ 男女共習授業
- ・ 異学年共習授業
- ・ IT授業



笑顔であいさつ

- ・ ゲストティーチャー
- ・ ペア・グループ分けの工夫
- ・ 試合のあいさつは笑顔と握手
- ・ 大きくはつきりした発声 等

(2) 安心・安全な環境づくり

生徒が落ち着いて学習や生活に取り組める環境を整えるのが大切である。美しい教室や学校、美しい言葉、美しい行動にあふれる空間を広げることで安心感は生まれる。掃除や給食の配膳、下駄箱や自転車、ロッカーや服の整理整頓等、誰でも意識をすればできるところを徹底させる。教師や仲間のメ



掃除・整理整頓

ッセージや四季を感じさせるような潤いのある空間を用意するだけで温かな人間関係の醸成につながる。

(3) 社会性を高める

人には、社会の中で他と交わり、共に生活していく能力が必要である。また、日常生活の中で出会う様々な問題や課題に、創造的で効果のある対処を自分で行わなければならない。意思決定、問題解決能力、想像力豊かな思考、共感性、ストレスの対処等、たくさんの技

能が必要不可欠である。

- ・ 百文字作文、日記
- ・ 手紙、暑中見舞い、年賀状
- ・ 誕生日メッセーじカード
- ・ 読み聞かせ
- ・ 構成的グループ・エンカウ
ター 等

(4) 自己肯定感を育む取組

自己肯定感を高めるためには自
分の存在が肯定される体験を積み
重ねていくことが大切である。小
さな良いところを「貯金」して安
心感を高めていき、心の安定だけ
でなく、体の調子を整えていくこ
とも大切にする。

- ・ あいさつ運動
- ・ 一日一善
- ・ 自主勉強
- ・ 健康チャレンジカード 等

(5) 他者と積極的にかかわる取組

誰かのプラスの部分を見つけれ
れるようになると、温かい人間関
係が築かれ安心感が高まる。失敗
しても自分を肯定できるという感
覚が芽生え、周囲の人に積極的に

かかわることができると

- ・ クラス内でお互いのいいところ
探し



クラス内でのいいところ探しを
全体で共有するありがとう集会



保育園児、高齢者との交流会

・ ありがとう集会

- ・ 保育園児、高齢者との交流
- ・ 町内清掃活動 等

自分では何でもないことと考
えていても、そのことを「すごい！」
と評価されると自信が芽生えてく
る。自分の行動が肯定され、存在
感がそこに生まれる。自分の居場
所を確保することで人が大きく育
つ足場になると考える。子どもた
ちの可能性は無限大で、その可能
性を広げられるような支援や指導
が大切だと考える。

3 おわりに

活動の中に仲間との対話や協力
する場面があるように工夫する。
また、個の力を伸ばしながら、集
団を成長させ、成長した集団の力
で、さらに個の成長を促すことを
心がけてきた。国際化、情報化、
科学や技術の発展、環境問題など、
目まぐるしい速さで社会が変化し
ている。社会の変化に対応する教
育の在り方として、いろいろな角
度から、柔軟な発想で指導や支援

を行うことが求められていると感
じている。社会的要請に対応する
教育を行っていくことは重要なこ
とではあるが、子どもたちの「安
心・安全」を守ることは不変であ
る。今後も子どもたちが仲間と共
に学び成長し、社会に貢献できる
人になるために必要な力を身に付
けさせる方策や環境を考えていき
たい。

「一生懸命はかつこいい」「失
敗は恥ずかしいことじゃない」を
合言葉に生徒と共に過ごしている。
生徒は笑顔いっぱい、生き生き
と活動している。多くの人とつな
がり、様々なかわりを通して、
ますます輝いてほしいと願ってい
る。そして、愛される人であって
ほしい。「人と自分は同じく愛さ
れる存在だ」という気持ちになれ
るよう、「ほめる・励ます・許す・
労う・ほほえむ」等、肯定的な働
きかけを大切に、「あなたがいて
くれてよかった」を伝えたい。
そして、たくさんの「ありがとう」
であふれる空間を広げたい。